



平成27年度「国際環境活動特別演習」(大学院) アンケート結果

履修者数：6名

回収枚数：6枚 (回収率：100%)

アンケート実施日：平成27年11月14日(土) ---合同発表会開催日

1. 所属別履修者数

	工学研究科	理学系研究科	計
男	5	0	5
女	0	1	1
計	5	1	6

※学年は、全員M2

2. 「国際環境活動プログラム」の『国際環境活動特別演習』を終えて、いかがでしたか。

期待どおりだった	5名
期待とは違った	1名

3. 全体的な感想

- ◇ かなり期待してこの演習を受けましたが、ベトナムにいた2週間で様々な体験ができ大満足でした。金銭的なサポートによりベトナムでの活動を思う存分できました。
- ◇ ベトナムで研究者たちと交流できたこと、また文化に触れることができたことは、私にとってとても貴重な経験となりました。
- ◇ 講義や活動を通して、これまで知らなかった環境のことや世界のことを知ることができたと思います。また、環境問題を解決することの難しさを実感として得ることができたと思います。
- ◇ 授業の教育計画、体調管理等、最大限の準備をしたつもりだが、想定外の出来事が多く、計画通りに進められなかった。
- ◇ 前年に経験していた先輩たちの話を十分聞いていたので、どのようなものかあらかじめ知っていたため期待していたものと大きく違っていなかった。
- ◇ 現地に赴く前、座学を行い、現地に行けたので、現実とのギャップを感じる事が出来ました。もちろん、学んだ通りのことがあり、実感しました。北山先生のベトナム語の授業はとても効果的でした。

4. 環境に対する意識の変化

大いに变化した	2名	<ul style="list-style-type: none"> ◇ このような問題にはこう解決していけばいいなど、実体を知らないまま、机上の空論で、環境問題を考えていた部分がありましたが、実際、環境だけでなく、政治や経済など様々な問題が絡みあっているので、環境だけを考えるわけにもいかず、その難しさを知りました。 ◇ 座学などでは分からない現実を通して、現地に実際に赴き活動することが大切なんだと強く思いました。
少しだけ变化した	4名	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 研究室にベトナム人が数人いるので、ベトナムでの様子は理解していましたが、実際行ってみると、空気や衛生面の違いに驚く点が多々ありました。 ◇ ベトナム人の環境に対する意識はまだまだ低く、発展途上国における経済成長と環境保全の両立の必要性和難しさが理解できたから。 ◇ 環境と聞くと、今話題の CO₂ による地球温暖化といった内容が最初に思い浮かんだが、この活動を通して環境問題に対して多用なアプローチを得ることができた。 ◇ 専門的にそこまで環境と関連していなかったためここまで環境をメインに考えることをしたことがなかったためいい勉強になった。

5. 改善すべき点や気付いた点

- ◇ 私たちのグループは人数が少なくできることが不可能になってしまったこともあったので、もう少し告知して参加人数が増えるようにして欲しかったです。・・・他1名
- ◇ 環境の方とのコミュニケーションを徹底するべき。
- ◇ アクシデントに対して、より柔軟に対応すべき。
- ◇ ベトナム語をもっと多く学ぶタイミングがあれば、もっとコミュニケーションがとれたと思う。

6. 「国際環境学特論」、「環境コミュニケーション特論」を含む「国際環境活動プログラム」全体の感想

- ◇ ほとんどの授業を楽しく聞くことができました。
- ◇ 全体を通してみると、普段の専門科目の講義と違い、本講義は受講者参加型の講義が多く、主体的に講義に取り組むことができたため、受講者参加型の講義はこれからも続けて行って欲しいです。
- ◇ 自身の専攻とは離れたこの知識を得ることができ、また、他専攻の方との交流もできる授業だと思うので、新たな知見を得ることができたと思います。
- ◇ 理論だけでなく、手を動かして得られる経験を得ることで、より自分自身に定着したと思う。
- ◇ 全体を通して、ESDを初め、多くのことを学び、知り、経験し、さらに楽しかった。
- ◇ 全体的な流れに一貫性があり、その集大成が現地の活動となるので、良いと思います。

